沖縄語かわら版

沖縄語を話す会会報

第５号

２００５年３月３１日発行

会長　城間　朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平２丁目２番９－３０３

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp　國吉　眞正

２００４年7月１７日夏の宴の席で吉野初枝さんが沖縄の言葉で挨拶された

「沖縄語を話す会」　月に二回集まてぃぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

・唄ぬ御縁----------持田明美

・「沖縄古典音楽」んかい引会ーさりゆん----------五木田秀夫

・魂ーー沖縄ん人（５）----------新垣清松

・沖縄口ぬ墨復----------國吉（眞）

・事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

唄ぬ御縁

持田明美（杉並区）

沖縄ぬ唄んかい趣味ぬあてぃ三線弾ちゅる如成いびたしが、なー、ぃーくる二十年成いびたん。

あんし長ー続きてぃ、良ー飽ち果てぃらん如っし弾ちょーいびーさたい。

唄ぬ世界んでぃ言しぇー、底ー無ーんくむいぬ如どぅあいびーる。たった深さる所んかいすびかりーんねーさびーん。

去年ぬ四月からー安富祖流んかい入っち、「琉球古典音楽」ぬ入り口んかいぬばがとーいびーん。

習い始みてぃ見じゃびーねー、端歌とぅ大節とー唄ぬ趣ちん、うりから仕方ん一杯違いんでぃ言しぇー、本当やいびーてーさやーんち、解てぃ来ぁーびたん。

琉球文化ぬ幅ぬ広さんかい驚かさっとーいびーん。

此りまでぃ、唄ー、如何ぬよーな人ぬ達が、また如何ぬよーな場所をてぃ歌らってぃ来ぁーびたがやーんち、解い欲しく成てぃ、小さる島ぬ祭りとぅか、歌いる人ぬ達訪にてぃ歩ち来ぁーびたん。

何処んかい行じん、島んかえー縁ぬ無ーん者ぬ、何んでぃち島ぬ唄好ちやがんち、ふぃるまささっとーいびーん。

島ぬ人ー、ありやーくりやー我んにんかい問ーみそーち後、島ぬ人ぬ思とーたる返答ぬ無ーんねー、「ゆーさいねー、御所が元祖ぬ誰がなが我達島ぬ人やいびーてーさ。」んでぃち、なー、島ぬ人ぬ肝ふじゅる如っし合点そーみしぇーびーたん。

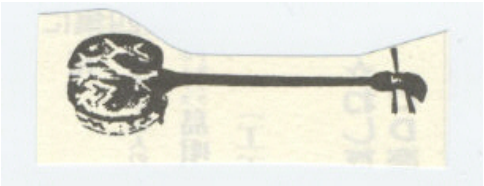
あん言らりやびてぃ我んねー、「島ぬ人んあらんあい、血筋ん無ーん旅ぬ人ー歌いる分ん器量ん無ーんさ。」んでぃ言らっとーんねーさびたん。

何処んかい行じん旅ぬ人どぅやたる我んどぅやいびーしが、二回三回島んかい訪にてぃ行じゃびたくとぅ、家人衆ぬ如っしふぃらてぃ御賜みそーち、やっとぅかっとぅ血筋ぬ代い別ぬ縁結でぃ御賜みそーちゃんでぃ思とーいびーん。

なー、「唄ぬ御縁」んでぃ言しぇー益しやいびーんでーやーたい。

また、親から子んかい大切に歌い継がする島ぬ唄ー、我んにん歌てぃん済むんでぃ言らったんでぃ思ーりやびーん。

三線弾ち、かんし御賜みそーちゃる「御縁」ー我んにんかえー、一杯肝要な事成とーいびーん。



「沖縄古典音楽」んかい引会ーさりゆん

五木田秀夫（藤沢市）

「しがり波」くれー間違ーや無ーらん押し寄してぃ来ゅーるしがり波ぬ如どぅあいびーたる。

奥深さる上なかい清らく味ぁーぬあんでぃる物やいびーたん。あんし、何んでぃん言ららん優とーる物や

いびて、容易に解いる物ーあいびらん。命ぬ宿とーる弦ぬ音と声とー綾ぬ如っし来ゅーる「しがり波」やいびーたん。

くりまで聞ちゃる事ん無ーん、むさげーとーる潮んかいん似ちょーいびーたん。くれー初みて聞ちゅる「沖縄古典音楽」やいびーたん。

今から二十年びけーん前ぬ事やいびーしが、川崎産業文化会館じぬ事やいびーたん。

我達家ぬちゅけー隣んかい暮らちょーみしぇーる比嘉さんで言みしぇーる御年寄が、催し物ぬあんでぃち習ーしみしぇーびーたん。

我んねー、ぐま訪にて行じゃびたしが、なー、しがり波んかい押し倒さりーる如どあいびーたる。

我んねー、思んちゃきらんＬＩＮ　ＹＵＴＡＮＧんで言みしぇーる人ぬ書ちみそーちゃる「あぬ夜ん昼んよーんなーよーんなー落て着ち流りて、年が年中海んかい入っち行ちゅる大事なまぎさるガンジス河原、近寄い苦さ重らーさる河原ぬテンポど我達望みやん。」んで言る事覚出じゃちょーいびーたん。

あったに、何がやら胴一杯ふでぃーぬ入っち来ゃんねーさびたん。此れー、「沖縄古典音楽」と我んが思ーじふらーじ引会ーさりーんでぃぬ事やいびーてーさ。

ありから、ぃーくる二十年経ちょーいびーん。

くぬ三月ー我ん女ぬ親ー三年忌迎やびーん。

今までぃぬ墓碑んかい、なー一ち、くぬ世失みそーちゃる女ぬ親うんたさっし仲間節ぬ歌ぬ「砌」うさぎやびたん。

「思事ぬあてん　余所に語らりみ

面影と連りて、　忍で拝ま」

恋ぬ歌どやいびーしが、我んが好ちゅる歌やいびーん。くぬ歌ー女ぬ親ぬ三年忌んかい寄しーる思い、出じゃしゅーする事んかい成て、くりからん三線んかい命限り気掛きゆんち思とーるとくるやいびーん。

家ぬ外んじ南高梅ぬ古木んかい咲ち栄ーとーる白花や夕まんぐぃんかい浮かどーん。

浜千鳥節ぬ沖縄装いぬうちゃとーる女ぬ親ぬ本当ぬ姿ぬ如っし目んかい浮かで来ゅーん。

女ぬ親ぬまーしみしぇーる前に我んが師範んかい成とーたいねー、如何っさが嬉さそーみしぇーたがやー。

春ぬ節に何がやら肝しからーしく成いんで言しぇー、くぬよーな事んかいど言がやー。

魂 ー沖縄ん人（５）　　新垣清松（横浜市）

会社辞みて、大和口使て、仕事する事ん無ーらん歳成てさくと、沖縄口びけーん使て、んしむる肝合成とーいびーん。

やいびーしが、今ぬ暮らしぇー家人衆ー沖縄口ー成いびらんくと、肝しからーさいびーさ。

四年前ぬ事やいびーしが、「おきなわの声」んで言る新聞んかい「沖縄語を話す会」ぬ事書ちぇーし見ち、我んねー嬉さぬ直ぐ城間会長さぬんかい電話さびて、会んかい入っちょーいびーん。

此ぬ会ぬ中をてー、充分沖縄口使てしまびーくと念願やかなとーいびーん。

くぬ会ぬ事務局んじぇー去年ぬ三月から会報「沖縄語かわら版」出じゃする事んかい成いびて、くぬ会報や沖縄字さーに書ちぇーいびーん。

大和字組み合ち書ちゃびーねー、読むしが難さいびーしが、くぬ沖縄字や組み合しぇーさん如一字さーに書ちゃびーくと、一杯便利な物やいびーん。また、読み慣りーねー発音んどーー易さいびーん。御衆様ん是非使て見じみそーれー。

我んねー、今まで胴ぬ沖縄口書ちゅんでる事ー無ーやびらんたん。此ぬ沖縄字覚てから書ちゅる事成て一杯ぬーりきさいびーん。親ぬーふじから継がっとーる清らさる沖縄ぬ言葉っし書ちゃい読だい成いんで言しぇー、親孝行やんで思とーやびーん。

此ぬ「沖縄語を話す会」んかい入っちから一、沖縄ぬ言葉習いる事びけーのーあいびらん。昔ぬ事ん色々解て肝ふじゅる毎日やいびーん。

会の御衆様一杯にふぇーでーびる。此りからん宜しく御願ーさびら。

沖縄口ぬ墨復　　國吉（眞）（川崎市）

去年ぬ秋まんぐる、コピーライターとエッセイストやみしぇーるM先生が、川崎市男女共同参画センターんでる所をて、「知的表現のための文章講座」開ちゃびたん。

此ぬ先生や方言ー、標準語ぬ元成ゆんでる物見ずる立場取とーみしぇーびーん。

うぬ立場から、如何ーさらー「知的表現」ぬ成いがやーんでる事に就ーて、考ーとーみしぇーびーん。

あんし、M先生が書ちみそーちゃる清らさる標準

語に就ーて、青森ぬ言葉と沖縄ぬ言葉んかい直ち、教室をて墨復っし見だなんで言る事んかい成いびたん。

我んねー、M先生と御縁ぬあいびて、くぬ難さる仕事御賜みそーち、M先生が書ちみーそちゃる文「秋の人」沖縄ぬ言葉んかい直ち、教室をて墨復さびたん。

此ぬ講座受きとーみしぇーる生徒ぬ達や、沖縄ぬ言葉ー解みそーらん人ぬ達やいびーたん。

我んねー、声出じゃち読むしぇー下手やいびーしが、墨復っし後、生徒ぬ達や「心に迫ってくるものを感じた。」んでち嬉さそーみしぇーびーたん。

我んねー、墨復する前に沖縄字さーに書ちぇーる「文」に就ーて、良ー解いる如っし読みよー習ーさびたん。

くぬ沖縄字さーに書ちゃびーねー、読むしんどー易さが上なかい、発音んしー易さいびーん。

また書ちぇーる字見じゃがちー声出じゃち読どーいびーくと、初みて聞ちゅる生徒ぬ達や大概解いんねーさびーんで言ちょーいびーたん。

一杯大切なしからし御賜みそーちゃんで思とーいびーん。

M先生や「知的表現」する為ねー、方言ーゆちくに言葉ぬあいびーくと、エッセイとか小説書ちゅる場ねー、一杯使みそーりんち習ーしみしぇーびーたん。

事務局から

「沖縄語を話す会」では会報を発行してから丁度一年経ちました。計画通り第五号まで発行することができましたのは、皆様から貴重な原稿が寄せられたからであります。
毎回貴重な話題を寄せていただき、ほんとに有難うございました。

今回の第五号は二年目に入るわけですが、本年も昨年同様宜しくお願い申し上げます。
今回は沖縄の音楽とのご縁で活躍されている五木田秀夫さん（昨年野村流音楽協会師範になられました）と持田明美さんが、ほんとにありがたいお話を寄稿してくださいました。

お二人とも「沖縄ん人」でないのにおよそ二十年も沖縄の音楽の分野で活躍されております。
今後のご活躍をお祈りしております。

事務局では本年から原稿締切日を特に設けないで、どんどん原稿をいただく方法にしたいと思っております。原稿受取日を管理して日付順に各号へ載せていくようにしたいと思います。
たくさんの寄稿をお待ちしております。
会員以外の方も沖縄の言葉に関心がありましたら是非寄稿されるようお願い申し上げます。
沖縄文字への変換は事務局で行います。また原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いします。
そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ
事務局　國吉　眞正　０４４－９８８－８０６５
ＦＡＸ０４４－９８８－８０６５

第五号

語句の説明（沖縄語辞典、広辞苑による）

ぃーくる：大よそ。大かた。大体。たいてい。

飽ち果てぃゆん：飽きる。

くむい：池。沼。自然のもの・人工の溜池のどちらをもいう。庭園の池は「池」という。

たった：次第に。

すびかりゆん：ひきずられる。引っぱられる。

ぬばがゆん：ちょっと覗く。ちょっと顔を出す。

ふぃるまさん：不思議である。

ありやーくりやー：あれやこれや。あれこれ。

肝ふじゅん：満足する。

分：身分。身分にそなわる品位。

器量：才能。才器。

ふぃらゆん：つきあう。交際する。

御賜みしぇーん：賜る。下さる。

「呉ゆん」の敬語。「呉みしぇーん」より丁寧。

やっとかっと：やっと。ようやく。

肝要：肝要。「肝要な物」肝要なもの。

引会ーさりゆん：引き合わせられる。神仏の力によって、よい運命に引き合わせられる。

しがり波：津波。また、高潮。

何んてん言ららん：何とも言えない。ことばで表せない。

むさげーとーる潮：ざわめくうしお。

びけーん：ばかり。「童びけーん使ゆん」子供ばかりを使う。

ちゅけー隣：隣近所。

思んちゃきらん：思いがけぬ。意外な。

よーんなー：ゆっくり。

まぎさるガンジス河原：大きなガンジス河。

重らーさん：重々しい。品格がある。

あったに：にわかに。不意に。

何がやら：何が何だか。

ふてぃー：稲光。いなずま。

思ーじふらーじ：思わず。

うんたさん：愛される。慕われる。

「うんたさすん」慕う。

気掛きゆん：精出す。励む。

咲ち栄ーとーる白花：満開になっている白い花。

夕まんぐぃ：夕間暮れ。

うちゃゆん：似合う。適合する。

まーすん：死ぬ。なくなる。

肝しからーさん：心さびしい。うらさびしい。

肝合：意味。わけ。理由。

嬉さん：うれしい。

どー易さん：たやすい。容易である。

ぉぬーりきさん：面白い。楽しい。

親ふぁーふじ：父祖。先祖。

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

如何ーさらー：どうしたら。

墨復：読書。音読。朗読。

見じゃがちー：見ながら。

解いんねーさびーん：解りようです。

しからし：経験。

ゆちく：豊か。裕福。

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

とぅ[tu]　とぅい（鳥）、うとぅ（音）、みーとぅ（夫婦） と[to]　とーふ（豆腐）、とーばる（桃原）	ふぇ[hwe]　ふぇー（南）、にふぇーでーびる（有難うございます） へ[he]　へい（おい「目下への呼びかけ」）
どぅ[du]　どぅし（友人）、やどぅ（宿）、どぅー（自分） ど[do]　どーぐ（道具）、まんどーん（たくさんある）	やぁ[?ja]＊　やぁー（君、お前）、やぁん（言わない） や['ja]　やー（家）、やん（である）
てぃ[ti]　てぃーち（一つ）、てぃーだ（太陽）、てぃん（空） て[te]　てーく（太鼓）、てーしち（大切）	ゆぅ[?ju]＊　ゆぅん（言う） ゆ['ju]　ゆんたく（おしゃべり）
でぃ[di]　ふでぃ（筆）、ぬーでぃー（喉）、でぃきやー（秀才） で[de]　でーじ（大変なこと）、ちょーでー（兄弟）	よぅ[?jo]＊　よぅーいー（おさな子） よ['jo]　よーんなー（ゆっくり）
くぁ[kwa]　くぁじ（火事）、くぁっちー（ごちそう） か[ka]　かじ（風）、かんない（雷）、かーま（遠方）	ゎ[?wa]＊　ゎー（豚）、ゎーちち（天気） わ['wa]　わーむん（私のもの）
ぐぁ[gwa]　にんぐぁん（念願）、ぐぁんく（頑固） が[ga]　がんちょー（眼鏡、めがね）、しがた（姿）	ゐ[?wi]＊　ゐー（上）、ゐーりきさん（面白い） ゐ['wi]　ゐきが（男）、ゐなぐ（女）
くぃ[kwi]　くぃー（声）、さっくぃー（咳）、くぃゆん（呉れる） き[ki]　きー（木）、きゆん（蹴る）、きぶし（煙）	ゑ[?we]＊　ゑーきー（金持ち）、ゑんちゅ（ねずみ） ゑ['we]　ういゑー（お祝）、わじゃゑー（災い）
ぐぃ[gwi]　ぐぃーく（越来「地名」） ぎ[gi]　かーぎ（容ぼう）	ん[?N]＊　んみ（梅）、んに（稲）、んなじ（うなぎ） ん['N]　んに（胸）、んみ（嶺井「地名」）、んなと（港）
くぇ[kwe]　くぇー（鍬）、からじくぇー（髪きり虫） け[ke]　けー（かゆ）、ちけー（使者）	ぃ['i]＊　ぃん（縁）、ぃだ（枝） い[?i]　いん（犬）、いーび（指）、いちゅん（行く）
ぐぇ[gwe]　ぐぇったい（ぬかるみ） げ[ge]　げー（害）、にげー（願い）	を['u]＊　をと（夫）、をーじ（さとうきび） う[?u]　うと（音）、うーび（帯）
ふぁ[hwa]　ふぁー（葉）、なーふぁ（那覇） は[ha]　はる（畑）、はぎもー（荒地）	ぇ['e]＊△　ぇーま（八重山）、ぇーじ（八重洲） え[?e]△　えーさち（あいさつ）、えーじ（合図）
ふぃ[hwi]　ふぃじゃい（左）、ふぃーと（いるか） ひ[hi]　ひやみかすん（えい、と言う）	お[?o]　おーじ（扇）、おーさん（青い） を['o]　をーじ（王子）、をーれー（往来）

[ ]内は沖縄語辞典による読み方　　（自由使用とされていますので、使用許可は要りません。）

＊　は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例　○とぅい（鳥）、×とぅぃ

△　音の出だしに、僅かにｉをひびかせます。